

令和5年12月定例会一般質問

通告4

質問 観光振興の展望について

答弁 機運が高まれば町として協力します

8番 えぐち ともこ
江口 智子 議員

【質問：江口 智子 議員】

8番、江口智子でございます。通告に従いまして、観光振興の展望について質問をさせていただきます。

新型コロナウイルスにより大きなダメージを受けた旅行業は、2022年10月に国が水際対策を緩和し、本年8月には中国からの団体旅行の解禁などにより外国人訪日客が増える一方で、国内においても本年5月、コロナの5類移行以来、全国旅行支援やコロナ禍からの反動増により人流が活性化し、コロナ前の勢いを取り戻しつつあります。

当町においては、10月に1日2便のHAC丘珠線が就航し、空港を持つ町の優位性をさらに活かした観光入込客数増の取組が期待されるところであり、今後の観光振興について2点にわたって質問いたします。

1点目は観光資源としての北根室ランチウェイの活用についてであります。

令和2年に閉鎖となったランチウェイの再開については、令和3年9月定例会において松村議員が一般質問されており、年間3000人ものハイカーが訪れる国内最大級のロングトレイルで、コロナ後にも存続していれば、大自然を満喫し心と体をリフレッシュできる体験コンテンツとして注目を集めただろうが、主宰者である佐伯氏の閉鎖の決断を尊重するとの答弁でありました。

閉鎖の理由の一つとして、佐伯氏はトレイルの維持管理をするための体力の限界を挙げておられましたが、同じように草刈りの手が回らず、登山道の安全確保が出来ないとして、標津岳の春の山開きを見送った後に、登山愛好家で結成された南知床山岳会が建設業協会の協力を得て標津岳の草刈りを実施し、再び登山ができる環境を整えてくださったとのことです。

この南知床山岳会の方々がランチウェイの保全についても、協力を検討していると聞いております。また、本年よりふるさと納税業務を離れたなかしべつ観光協会は、次なる取



入の柱となる事業を模索していますが、観光コンテンツの少ない当町にあって、四季を通じた活用が可能なランチウェイで着地型のツアーを主催することができれば、本来の観光分野で事業展開を図ることが可能となります。コロナからの本格的な回復期に入った今、ランチウェイの価値を再考し持続可能な形での運用を協議する時期に来ていると感じますが、この点、町長はどのようにお考えでしょうか。

2点目は地域おこし協力隊員の公用車の使用についてであります。

歴代の地域おこし協力隊員は、着任後、プライベートで使用するための車を購入していましたが、近隣町の隊員は中標津を含む複数の自治体を検討し、最終的に選んだ町の決め手となったのは、ガソリン代を自己負担することで公用車の私的使用が認められていたことだったと言います。着任前に車を買うだけの貯蓄があれば良いのですが、最長任期3年間という限られた年月で、物価高騰の折、月に10数万円の報酬で車を購入することは、分割であっても厳しいものがあると考えます。

現在、観光協会に配属されている隊員は車を所有しておらず、道東へ来るのも初めてという中で、近場の観光地を巡り見聞を広げることも出来ない状況であると聞いていますし、今後も車を所有しない隊員が着任することも考えられます。

観光業務に従事しながら、問い合わせに対して答えられないなど業務に支障を来すことのないよう、また、このことがネックとなって、人材を逃すことのないよう、着任後、1年間等の期限を決めるなどして、公用車の私的使用を検討すべきではないでしょうか。

【答弁：町長】

江口議員御質問の観光振興の展望について御答弁申し上げます。

1点目の観光資源としての北根室ランチウェイの活用についてであります。2020年に閉鎖となりました北根室ランチウェイにつきましては、多くのハイカーが訪れる人気のロングトレイルで、まさに議員のおっしゃるとおり、大自然を満喫し心と体をリフレッシュできる体験コンテンツであると理解しており、存在やその価値については十分評価しております。

閉鎖の理由の一つに、草刈りなどトレイルの維持管理の問題もあるようでしたが、さらに大きな問題として、利用者のマナーや事故発生の際の責任の所在、また、防疫の問題など地域的な課題が露呈し、なかしべつ観光協会と町が2年以上かけてランチウェイ継続に向けた協議を行いましたが、解決策を見いだすことが出来ず現在の状況に至っております。

このような状態で閉鎖されたランチウェイそのものを復活させることは厳しく、協議を開始することは難しいと感じているところではありますが、ランチウェイを含むロングト

レイルの造成など、検討する新たな団体等で機運が醸成されるのであれば、町としても協力してまいりたいと考えております。

それから2点目の地域おこし協力隊員の公用車使用についてであります。

なかしべつ観光協会に配属される地域おこし協力隊が使用する借上車両につきましては、これまで公務使用以外認めておりませんでした。議員の御指摘のとおり、乗用車を所有しない隊員が見聞を広げるためには不便な状況であることは確かです。

また、本町に着任する地域おこし協力隊は、三大都市圏内都市地域という要件から、これまでの採用者も乗用車所有者が少数であったことを鑑みると、柔軟な運用について検討できるか考えておりますので、御理解賜りますようお願い申し上げます。

【質問：江口 智子 議員】

1問目について再質問をさせていただきます。

明年1、2月には釧路空港と台湾を結ぶチャーター便が就航し、高額な旅行支出で知られるインバウンドに拍車がかかるとともに、海外のアウトドアブランドが道東のロングトレイルに熱い視線を注いでいるという状況も聞こえてきます。

ランチウェイをはじめとする道東のロングトレイルの価値は、牧歌的な景観を楽しみながら、北海道らしさを満喫できる場所にあり、散歩から登山までを含めた国内のトレイル人口は3500万人とも言われる中、関係人口の創出には大変価値のある観光資源となります。

北根室ランチウェイの現状については理解いたしました。ロングトレイルの先駆けとして、町に根づいた歩く文化を町として継承される考えがあるか、お聞かせください。

【答弁：町長】

先ほど申し上げましたとおり、ランチウェイの復活については現状、ちょっと厳しい状況ではありますが、ロングトレイルそのものの人気に関しましてはもちろん十分に理解をしているつもりでありますので、今後何か機運が高まるようなことがあれば、町としても応援していきたいというふうに考えております。以上です。

【質問：江口 智子 議員】

南知床山岳会が結成されたのは本年であり、観光協会の事務局や地域おこし協力隊などスタッフも皆、着任して1、2年です。ロングトレイルの歴史と文化を観光資源に高めるために、町としては機運が醸成されたら協力するという一協力者の立場ではなくして、主

体的な関わりが必要不可欠であると考えますが、この点についてはいかがでしょうか。

【答弁：町長】

再度の質問にお答え申し上げます。町としての積極的な運営参加ということでございますが、行政が参加することによりまして、よりその責任の度合いが重くなってしまいうということも考えられますし、柔軟な対応、それと当然人員配置等も含めましてですね、なかなか厳しいものがあるのも実態でございます。

したがって、現状では協力するという程度しか考えておりません。以上でございます。